芭蕉元禄事業　奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

# 平成三十年七月度　入選句（投稿総数三千五百三十句・小中学投句数二千八百二十三句）

選者　高木　恵理

## 特選

**ひやけしてせなかにできた世界地図**　大垣市　平子　倖夢（小五）

今年の夏は、日本中どこにいても、例年と比べてぐんと暑かった。太陽がじりじりと肌を焼く。日中は、肌が痛いほどだ。どうやらこの暑さは日本だけではなかったらしい。世界中が猛暑に襲われたようだ。作者はおそらく水泳で焼けたのだろう。日本地図ではなく、世界地図と言い切ったところに、今年の夏がいかに暑かったかを物語っている。

**手のひらを返せばすすむぼんおどり**　大垣市　米津　祐人（小三）

広場に人が集まってきた。手をつないだ親子。浴衣を着た家族。提灯の灯りが辺りを照らす。集まった人々が円を描いた。今、太鼓の合図でぼんおどりが始まったようだ。曲に合わせて、人々は下駄を鳴らす。手拍子を打つ。手のひらを返したところで、一歩前進だ。大きな渦を感じさせる躍動的な俳句である。

**急ていしとかげのしっぽふみそうだ**　大垣市　長澤　麻未（小五）

「とかげ」と言えば、よく尻尾を切るイメージがあります。ところが、とかげが尻尾を無理やり切られてしまったら、尻尾は再生しないそうです。さらに、弱ったとかげは死んでしまうそうです。きっと作者は、「とかげのしっぽを踏んでしまってはいけない」と思ったので、急停止したのですね。小さな生き物への優しいまなざしが感じられる俳句です。

## 秀逸

たいふうがてるてるぼうずねらってる　大垣市　横川　柚季（小三）

頭から流れるあせが目にしみる　美濃加茂市　石原　朋樹（中一）

夏の空うぐいすばりのひびく城　大垣市　清水　瑠海（小六）

あまがえるあめにあわせてうたいだす　大垣市　清水　煌大（小四）

船頭さん舟と歴史を語る夏　大垣市　岡島　悠佳（小五）

おとうさんかえるとすぐにビールのむ　大垣市　神田　悠稀（小五）

ぬけがらで歴史をかたる油蝉　大垣市　野村　煌希（小五）

宿題のえんぴつ止めて水遊び　大垣市　森　麻亜子（小五）

夏休みどこへ行こうかなやむ父　大垣市　岡部　翔太（小三）

グランドに入道雲がやってきた　大垣市　林　大翔（小三）

## 入選

太陽の光をはじく夏の川　大垣市　宮川　凌（小六）

やわらかいうなぎを食べてヒット打つ　愛知県碧南市　林　蓮太（小六）

あめの日はかえるがたかくはねている　大垣市　村山　侑鈴（小三）

あおむしがぼくのサラダであまやどり　大垣市　青木　啓斗（小三）

雨の道はやくわたってかえるさん　大垣市　大塚　彩友美（小三）

ほたるさんともだちつれてとんでいる　大垣市　いな川　いつき（小二）

ほたるさんおしりのでんきけさないで　大垣市　いとう　杏（小二）

せみの声森を舞台に大合唱　美濃加茂市　藤掛　花菜（中一）

蝸牛葉っぱに乗ってゆれている　美濃加茂市　林　恵介（中一）

セミがなき自分の声がきこえない　美濃加茂市　巾　友輝（中一）

## 入選

かぶと虫樹液求めて木から木へ　大垣市　山　廉志郎（小六）

夏の川水面ぎりぎり鳥が飛ぶ　大垣市　向山　莉央（小六）

なすさんはどうしていつもふくれるの　大垣市　吉田　珠里（小四）

黒い雲かみなりつれてこないでね　大垣市　伊藤　美怜（小四）

金華山入道雲にまけている　大垣市　川瀬　恵太（小五）

夏休み宿題というおにが来る　大垣市　河合　笑鈴（小五）

虹の色何色あるか数えたよ　大垣市　國嶋　小春（小五）

すいかわり右に左にフラフラと　大垣市　ふち　とくひさ（小三）

風かおるばあちゃんちにおとまりだ　大垣市　加納　都和子（小三）

おぼんくるご先ぞ様をおむかえに　大垣市　そうみや　けいた（小三）

## 選者吟

民宿がひとつ離島の夏休み　恵理